福井県医師会

だより

第６９２号　平成31年(2019) 2月

呼鳥門　　**福井市　竹越　忠美**

表紙写真説明：**呼鳥門**　　福井市　竹越　忠美

大きな岩がせり出し、風や波の浸食によりできた洞穴（礫岩）で、長い年月を掛けてくり抜かれた自然のトンネルで越前海岸を代表する景観地である。1958年県道の開通とともに「渡り鳥を呼ぶ門」として「呼鳥門」と名付けられた。2002年呼鳥門トンネル開通により、現在は指定を外れて遊歩道となっている。越前水仙をイメージして描いてみた。

醫縫録

女性医師支援について

女性医師支援担当理事　土　川　和　宏

２年前より県医師会の理事に就任し女性医師支援担当を拝命いたしました。微力ではありますが少しでもお役に立てるように頑張る所存でございます、よろしくお願いします。私は整形外科を生業としていまして開業して20年になります。私が若い時は整形外科の女性医師は少なく女性医師との関わりがほとんどありませんでした。その私が女性医師支援を担当することになり、これまでに学んだことを少し話したいと思います。

現在、医師の働き方対策が検討されています。今年から労働基準法として時間外労働の上限を原則月45時間、労使合意にて平均60時間、上限を超えて長期間労働した場合は罰則の可能性もあるそうです。

病院医師の４割程度が60時間以上の労働、約半数が年休取得数３日以下というデータがあります。４月からは年次有給休暇５日以上取得するよう義務化されます。よって医師の働き方を検討するうえで医師数が足らない状況になるのです。また専門職としての医師を守るために、働く時間について一定の基準を設けることは妥当です。なぜなら医療安全への影響のみならず、長時間労働はBurn outという形で個人の人生の質を損なう可能性があります。近年では診療業務以外のタスクが増加しており、それが勤務医の労働負担感を高めています。

また医療制度改革により新専門医制度の導入による医師の働き方の変化が望まれており、急性期病院が機能するにはさらに人材が必要です。そして女性医師が増加していく昨今、女性医師が休職せず長期間働けるように、勤務体系も当直なし勤務から短時間勤務など様々な勤務方法をその人にとって最適になるよう工夫し家庭と仕事を両立できるように支援していくことが将来さらに専門医としてキャリア-アップが果たせ、充実した医療体制を組んでいくことが働き方改革として望まれています。

そして、女性医師にとって出産というライフ-イベントと研修医、専門医取得のための研修期間と重なりバランス確保のための社会的支援は極めて重要となっています。病院側がどのような対策を打ち出すかで事業評価をしても良いと感じています。以前と比べ男女共同参画や育児支援への意識は高まっているように思いますが、家庭内での母親の役割は依然として高く、出産と育児と医療業務を両立させていくことの困難さはあります。今まで男性社会の中、頑張ってきた女性医師が多数いることも承知していますが、より良い環境を提供できるように出産・育児を応援するのみならず、医師業務との両立、医師としてのキャリア形成確保のための支援も重要であると思います。

今後、医師不足を解消するため女性医師だけでなく若い医師が働きやすい環境を整えることが大事で、魅力あるキャリア-アップが出来て安心して職場復帰出来るように、上司の理解や先輩医師が支援することで若い医師を増やすことにつながると思います。

福井県の場合、女性の就業率52.6％で全国１位、共働き率58.6％で全国１位、入所待機児童ゼロなど女性が働くことに年配者が協力して子育て支援を行う事が理解されている場合が多く、良い事だと思います。

最後に2020,30問題があります。「2020年までに30％の女性に役職を担ってもらえるように日本医師会でも女性医師が活躍できる社会を築けるよう目指しましょう」ということですが現実との差は大きく、地域医師会でも女性医師の活躍に向けて男女共同参画を推進していくことも大事だと思います。

平成が終わる時代に考え方を柔軟に変える努力も必要かもしれません。